

摂津国島下郡野々宮村西岡家文書目録（補遺）

直江 和宣

解題

西岡家文書は摂津国島下郡野々宮村で村役人等を務めた西岡家が所蔵していた総点数 308 点の文書群である（糸川風太「摂津国島下郡野々宮村西岡家文書目録」『茨木市立文化財資料館 館報』第 4 号、2019 年）。今回、この文書群に新たに追加された、「絵図下絵 野々宮村」、「安威川筋図」、「野々宮村地籍図」、「絵図 安威川筋」といった 4 点の絵図史料を補遺として目録を作成し、直江が見直しを行った。

野々宮村は、中央を安威川、南東を玉川が流れる低湿地帯である。元和初年の摂津一国高御改帳によれば、165 石余は高槻藩内藤信正の、360 石余は旗本石川貞政の知行である。内藤領分はその後、京都所司代板倉重宗領を経て高槻藩領となり、石川領分はのちに 124 石に減り、残りを旗本長谷川守勝領 151 石、旗本越知吉次領 85 石余となり、それぞれ子孫に継承されて幕末に至った（『日本歴史地名大系 第 28 卷 大阪府の地名』平凡社、1986 年）。

「絵図下絵 野々宮村」は、絵図内に「永井日向守様」「御殿様」と書かれていることからわかるように、高槻藩主・永井日向守領に該当する部分について庄屋によって作成されたものである。堤、川、そして領内のうち、荒地、田畑に該当する部分にそれぞれ色をつけられ、まとめられてい

る。色なしの部分も多く、同じ村内に複数の領主がいた「相給村」であったことがうかがえる。

「安威川筋図」「絵図 安威川筋」は、ともに安威川流域について描かれているが、前者に比べて後者は大きさが倍以上あることから、より広大なエリアにわたって村々の名前が記されている。前者では、生活排水等の「悪水」処理に関する悪水路・悪水樋が描かれていて、こうしたものの維持管理や周辺の村々との調整のためにこのような記録が残されていたと考えられる。

「野々宮村地籍図」は、野々宮村が 1200 分の 1 の縮尺で描かれている。地籍図とは、明治初年の地租改正によって作成された土地の区画形状・地番・地目・面積を記載した地図のことをいう（『国史大辞典 第 9 卷』吉川弘文館、1988 年）。

凡例

- ・表題 原表題を尊重し、原表題の無いものは（ ）で内容表題を補った。
- ・年代・西暦 文書に記載されている和暦を記し、西暦を補った。年代の無いものは、推定年代を（ ）で記載した。
- ・干支・月・日 文書に記載されている干支・月・日を記した。
- ・作成 文書の作成者を入力した。
- ・形数 文書の形状・数量を記載した。

番号	表題	年代	西暦	干支	月	日	作成	受取	形数
284	(絵図下絵 野々宮村)	天明7	1787	未	8	9	右村(野々宮村)庄屋弥市郎		絵図1
285	(安威川筋図)	(近代)							絵図1
286	(野々宮村地籍図)	(近代)							絵図1
287	(絵図 安威川筋)	延享2	1745	丑	11		下田部村庄屋高崎三右衛門		絵図1